



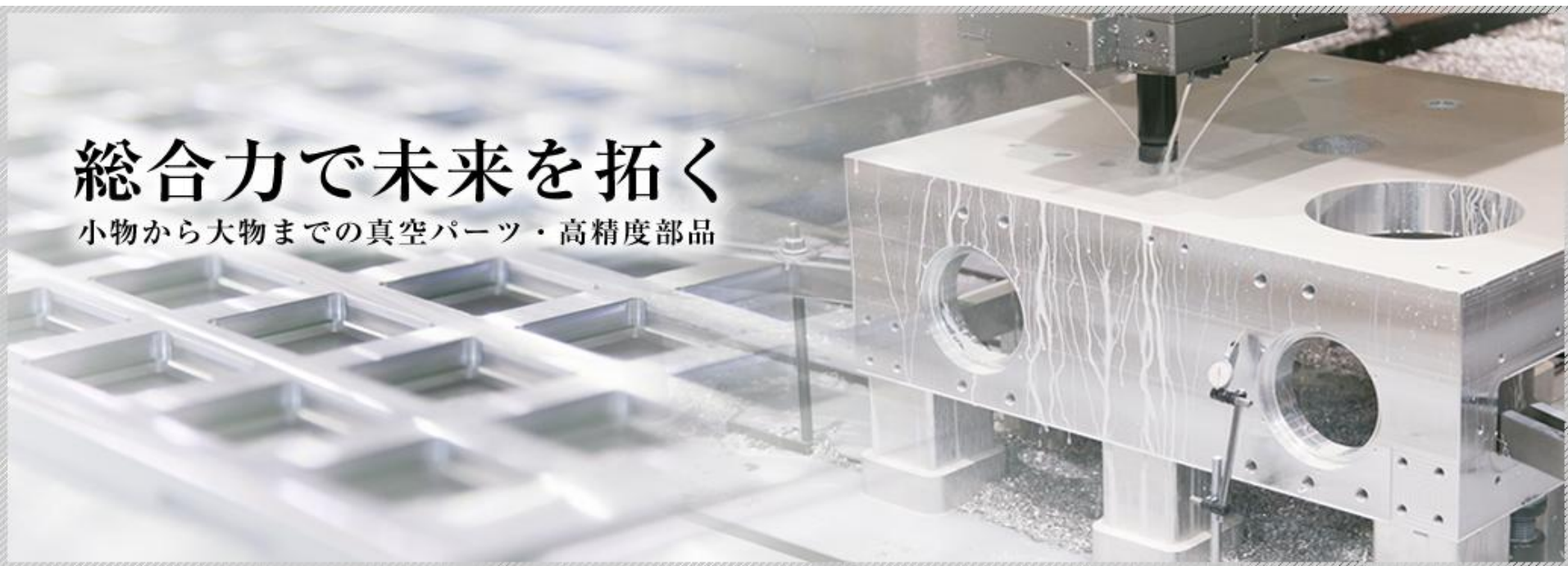
東証マザーズ(TSE Mothers):6264

株式会社マルマエ  
平成27年8月期第2四半期 決算説明会

平成27年4月17日  
大手町サンケイプラザ 302号室

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



## PL分析

PL

	平成26年8月期 第2四半期累計期間		平成27年8月期 第2四半期累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	857	-	1,108	-	29.3
受注残高	272	-	269	-	△1.0
売上高	701	100.0	1,023	100.0	45.8
売上原価	500	71.3	743	72.7	48.6
売上総利益	201	28.7	279	27.3	38.7
販売管理費	91	13.0	108	10.6	18.1
営業利益	109	15.7	171	16.7	55.9
経常利益	103	14.8	168	16.5	62.0
特別損益	9	1.4	14	1.4	45.4
当期純利益	112	16.0	181	17.7	61.4
EPS (円)	64.39	-	103.47	-	60.68
EBITDA	159	-	225	-	41.1

Point

### ①受注状況

- 半導体分野：595百万円  
(対前年同期：63.3%増)
- FPD分野：215百万円  
(対前年同期：7.2%増)
- その他分野：297百万円  
(対前年同期：1.9%増)

### ②売上高

- 対前年同期45.8%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

### ③売上原価・売上総利益

- 材料費：47百万円増  
(対前年同期：31.6%増)
- 労務費：33百万円増  
(対前年同期：19.5%増)
- 外注加工費：76百万円増  
(対前年同期：62.2%増)

### ④営業利益

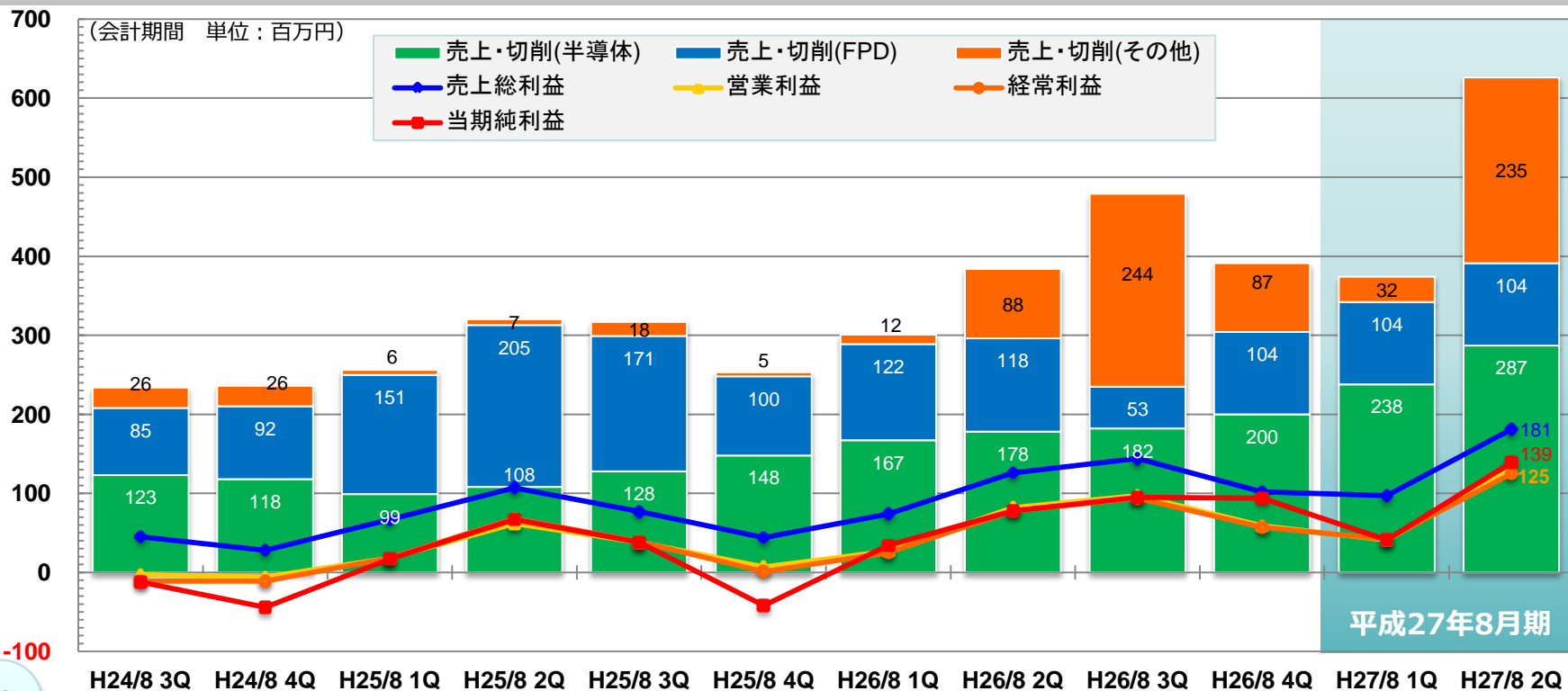
- 販管費は人件費と貸倒引当金の増加

### ⑤営業外収益/費用・特別利益/損失

- 支払利息：8百万円、補助金：15百万円

# 1.決算概要

## 四半期業績の推移



Point

### ①売上高は、半導体分野がけん引（数値は累計期間）

■半導体分野：525百万円（対前年同期：52.2%増）

- ・既存顧客内におけるシェア拡大と生産体制の強化で好調に推移

■FPD分野：208百万円（対前年同期：13.1%減）

- ・当社顧客の受注停滞が影響し低迷

■その他分野：267百万円（対前年同期：165.5%増）

- ・新型スマートフォンに関連した製造装置部品及びユニットのリピー特受注が続くなど好調を維持

### ②損益面では売上高の増加と生産性向上で順調

- ・受注品種拡大と外注活用により、変動費率増加
- ・売上高増加と生産性向上により営業利益を拡大

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

# 1.決算概要

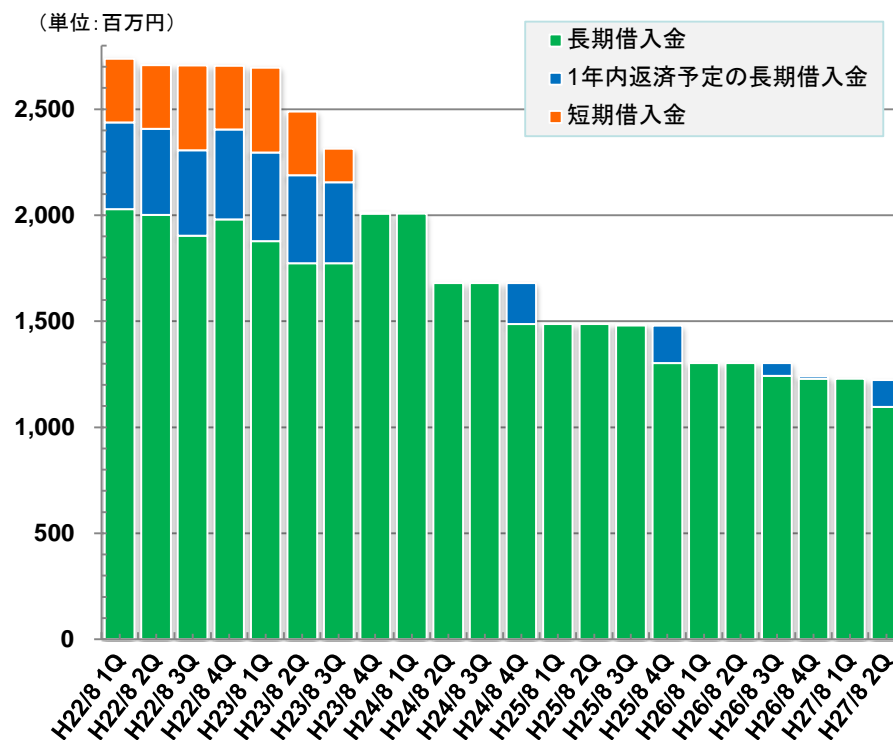
## B/S分析

B/S

(単位：百万円)	平成26年8月期 会計年度末	平成27年8月期 第2四半期末
流動資産	906	1,088
現金及び預金	162	232
受取手形・売掛金 電子記録債権	648	737
たな卸資産	85	116
固定資産	859	901
建物・土地	570	569
機械及び装置	265	307
流動負債	138	309
有利子負債（短期）※	12	126
固定負債	1,231	1,097
長期借入金	1,229	1,096
負債合計	1,369	1,407
純資産合計	396	583
総資産	1,765	1,990

※ 有利子負債（短期）：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

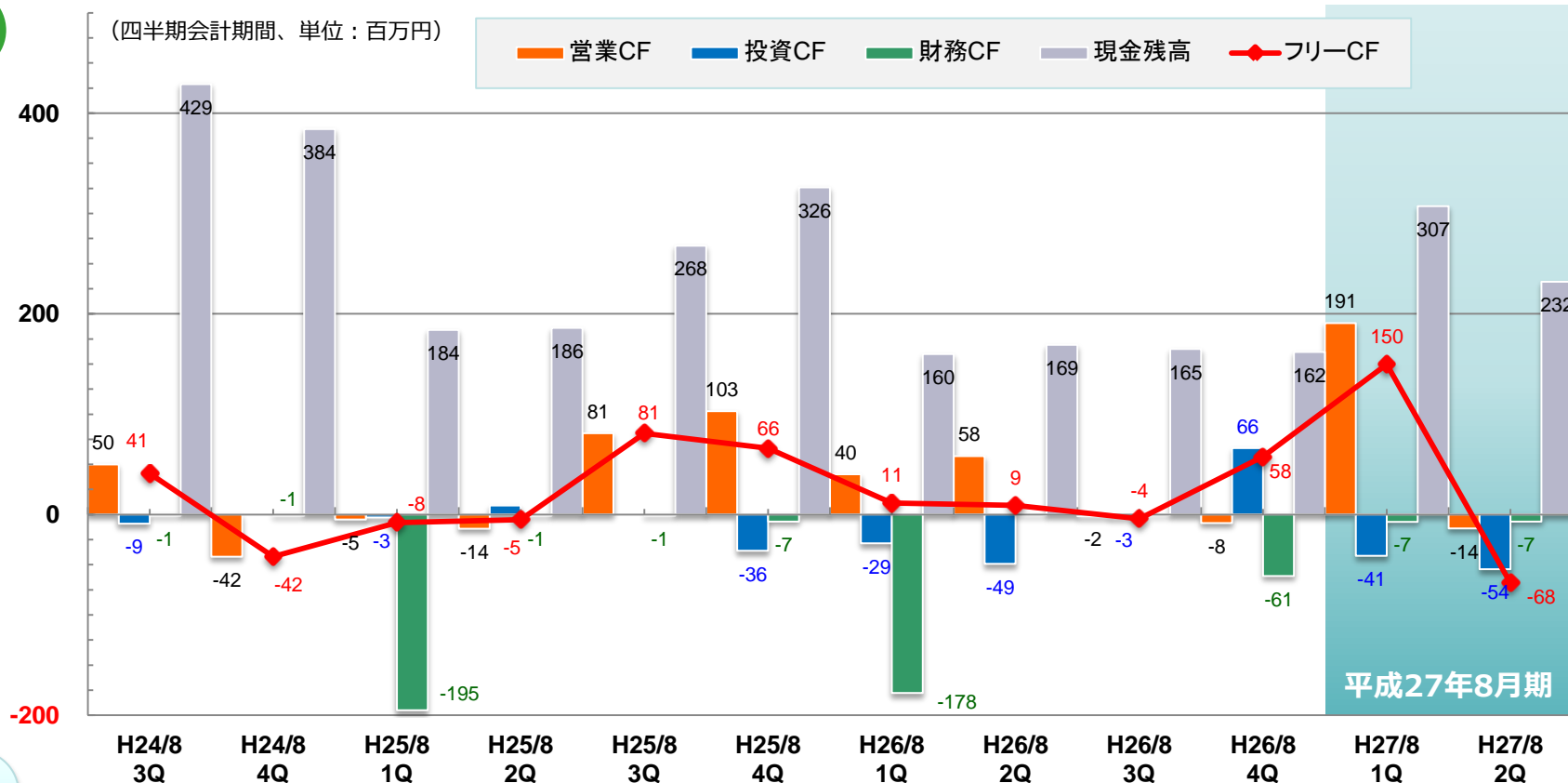
- Point ① **資産：1,990百万円(前期末比:224百万円増加)**
- 現金及び預金：69百万円増加
  - 受取手形及び売掛金等：41百万円増加
  - 電子記録債権：46百万円増加
  - 有形固定資産：42百万円増加
- ② **負債：1,407百万円(前期末比:37百万円増加)**
- 買掛金の増加等による負債の増加
- ③ **純資産：583百万円(前期末比:187百万円増加)**
- 自己資本比率：29.3%



# 1.決算概要

## CF分析

CF



Point

### ① 営業活動によるCF (当期累計) : 177百万円

- ・税引前当期純利益による増加 : 182百万円
- ・減価償却費による増加 : 54百万円
- ・売上債権の増加による減少 : 93百万円
- ・たな卸資産の増加による減少 : 31百万円

### ② 投資活動によるCF (当期累計) : ▲95百万円

- ・有形固定資産の取得による支出 : 93百万円

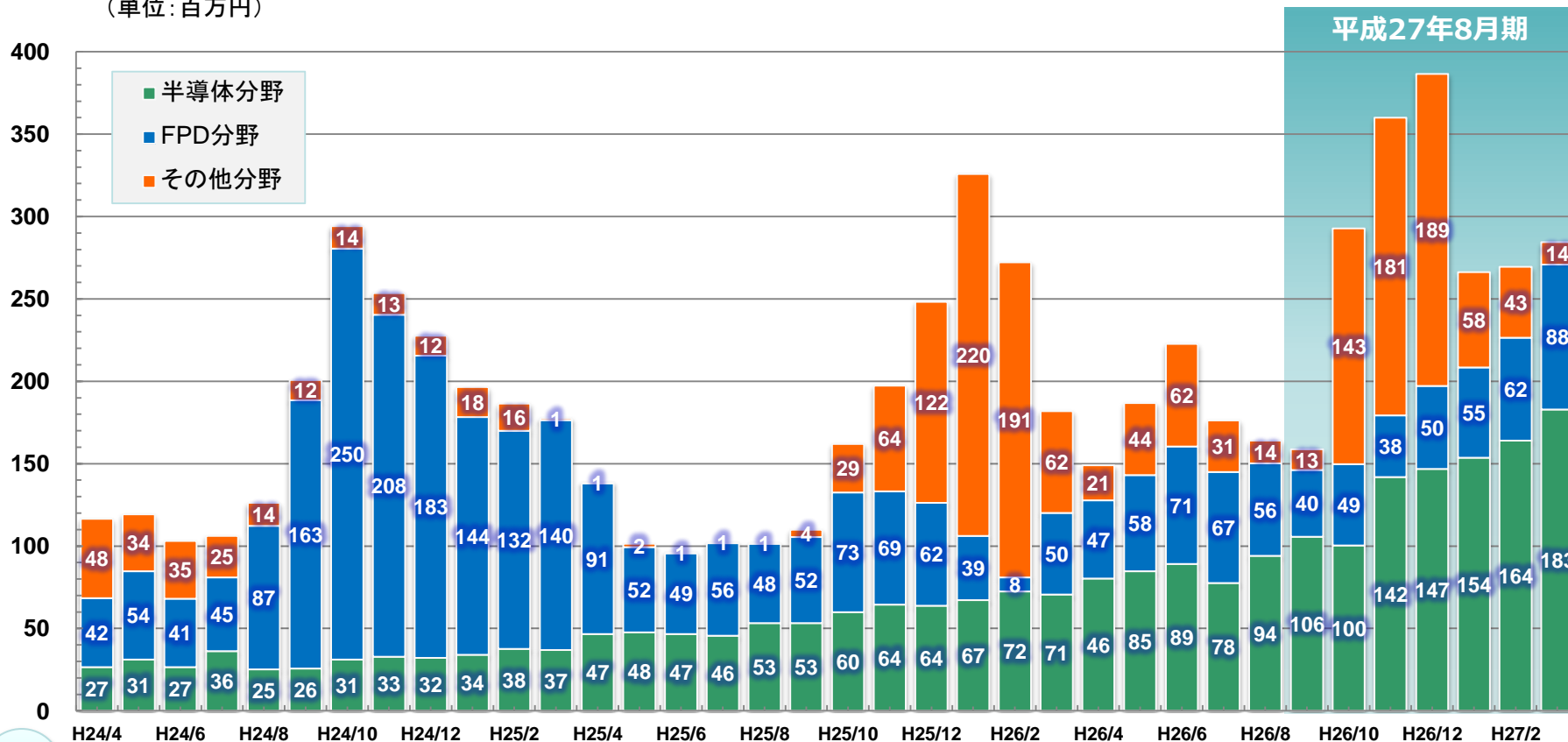
### ③ 財務活動によるCF (当期累計) : ▲14百万円

- ・長期借入による収入 : 1,229百万円
- ・長期借入金の返済による支出 : 1,249百万円

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

## 月次受注残高の推移

(単位:百万円)



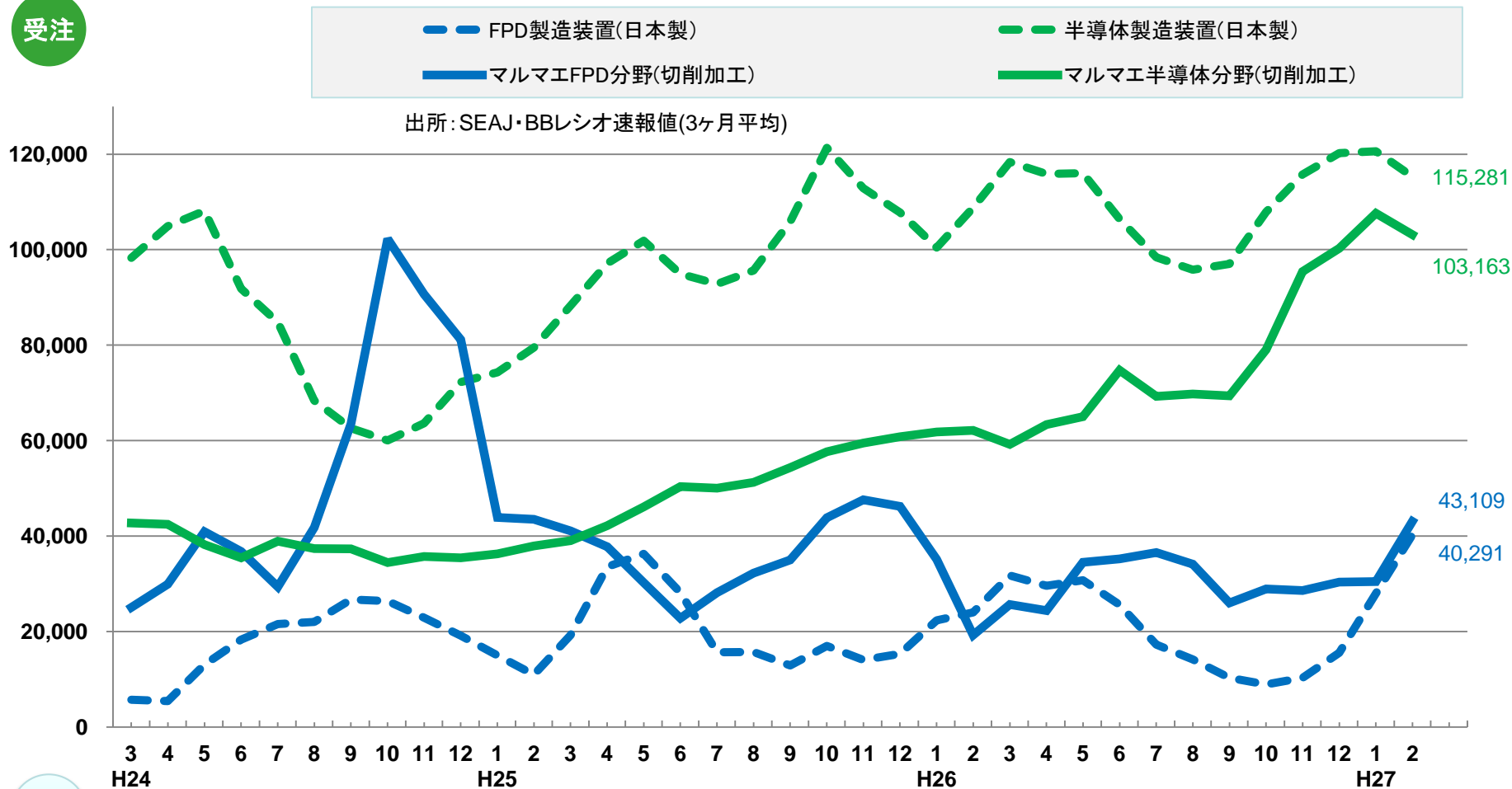
### Point

- 半導体分野は、好調な市場環境の中生産キャパ拡大を続けるも受注拡大に追いつかず受注残は増加傾向続く。
- FPD分野は、国内外の設備投資が活発化していることに伴って受注拡大。
- その他分野は、ユニット受注が一旦落ち着き、受注残は減少。

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム (LT) があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。(主に半導体はLTが短く、FPDはLTが長めです)

## 市場とマルマエの受注動向比較（3ヶ月移動平均数値）

受注



Point

- 半導体分野は、製造装置市場に調整の可能性も、受注品種の拡大と消耗品需要の増加で受注拡大は継続。
- FPD分野では、中小型から大型パネル向けまで、幅広く設備投資が拡大することで当社の受注も本格化。

### 販売分野別の環境と営業方針のまとめ

#### 半導体分野

- ◆ 製造装置の市場環境はピークを超えるも高水準続く
- ◆ 生産キャパを増やし、高難易度の真空パーツを中心に受注拡大狙う
- ◆ 高難易度品での価格競争があるも、値下げ競争には追従せず

#### FPD分野

- ◆ 国内外で多数の設備投資案件が動き、過去最高近い市場環境
- ◆ 国内同業社の生産キャパは不足し、ひっ迫感が出ている
- ◆ 材料・外注・電力など費用増加もあり、受注単価改善へ交渉

#### その他分野

- ◆ 次世代新型スマートフォンなど携帯端末の動向に影響を受ける
- ◆ 受注品種の拡大で売上の安定化狙う
- ◆ ユニット単位で受注し、総合的なコストダウンを提案する営業



# 3.平成27年8月期の業績予想

## 今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

業績  
予想

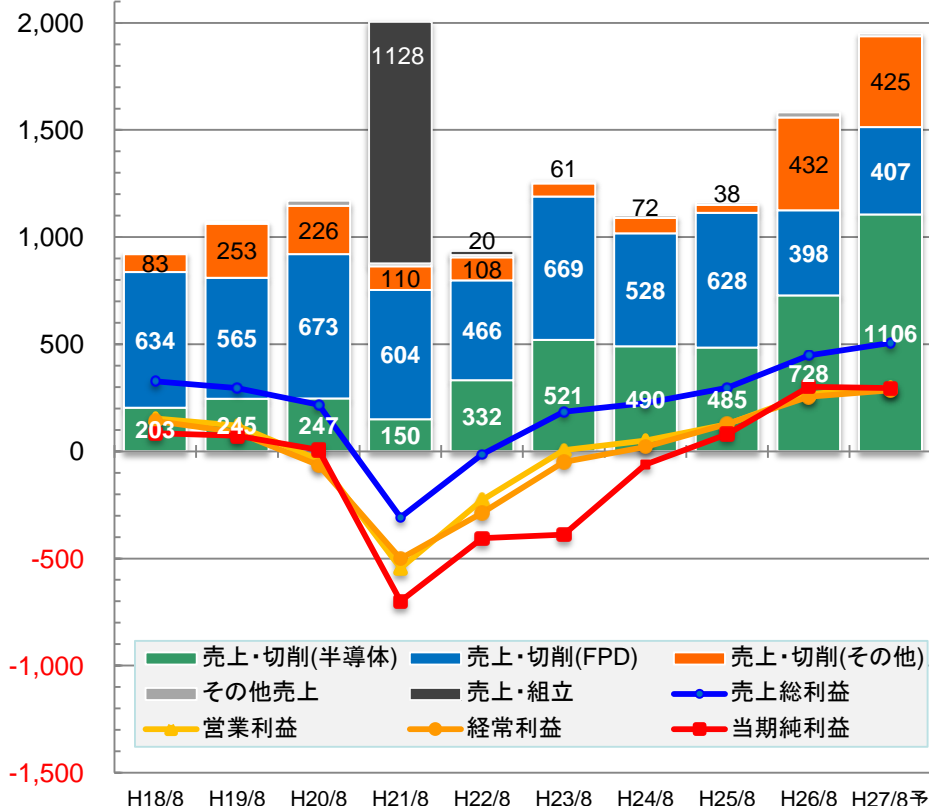
(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

平成27年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
通期	1,950	300	285	295	168.00

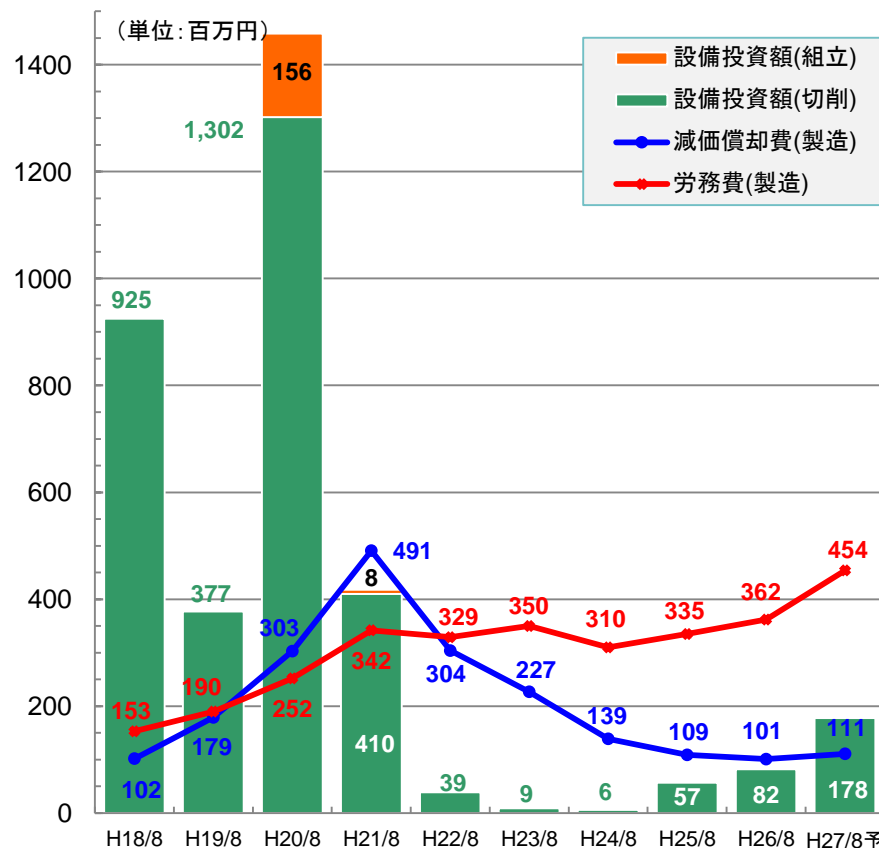
Point

- ✓ その他分野増加で通期予想の修正 (H27/2/9)
- ✓ 半導体分野は順調に拡大で強気見通し
- ✓ FPD分野は3Q以降回復見通し

(単位：百万円)



(単位：百万円)



## 事業再生計画の終結

Point

当社は、事業再生ADR手続の下で事業再生に取り組んでおりましたが、平成27年1月23日開催のバンクミーティングにおきまして、本事業再生計画を終結することで全取引金融機関と合意いたしました。

### 事業再生計画

- 生産構造改革
- 営業改革
- 組織改革



- 強固な収益体質の確立
- 財務体質の改善

### 金融支援

- 債務の株式化 (DES)
  - ・ 借入先 取引先2金融機関
  - ・ 債務の内容及び金額 借入金246百万円
- 債務の劣後化 (DDS) 及び債権放棄の組み合わせ
  - ・ 借入先 取引先1金融機関
  - ・ 債務の内容及び金額 借入金143百万円
    - ✓ DDS 借入金 113百万円
    - ✓ 債権放棄 借入金 30百万円
- 債務の返済条件緩和 (返済方法の変更及び返済期日のリスケジュールング)
  - ・ 借入先 取引先6金融機関
  - ・ 債務の内容及び金額 借入金2,090百万円

- 残存債務については新規に全額の借入を行い弁済。
- 発行したA種優先株式は、今期中の買い戻しに向けて準備。
  - 5/14 臨時株主総会 (資本準備金の額の減少)

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先  
株式会社マルマエ 管理部総務課 IR担当

[ir@marumae.com](mailto:ir@marumae.com)

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863



# Company Profile

企業情報

## 進化する技術で未来を拓く

<b>会社名</b>	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)	<b>大株主 (普通株式)</b>	前田 俊一	928,400株	
<b>設立</b>	昭和63年10月		株式会社マルマエ (自己株)	109,447株	
<b>資本金</b>	1億3585万円 (平成27年2月28日現在)		前田 美佐子	84,000株	
<b>役員</b>	代表取締役社長 前田 俊一		川本 嘉世子	35,700株	
	専務取締役 山元 弘		マルマエ共栄会	34,900株	
	取締役 海崎 功太		日本証券金融株式会社	33,900株	
<b>従業員数</b>	111名 うち 臨時雇用者等43名 (平成27年2月28日現在)		取締役 藤山 敏久	前田 良子	30,000株
			監査役 兒島 吉二	五十嵐 光栄	27,900株
<b>所在地</b>	本社 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41		監査役 寺畑 幸雄	齋藤 格	23,000株
	関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15		監査役 梶 智和	川口 直信	22,700株
<b>事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精密機械・精密機器の設計・製造・加工・組立</li> <li>・精密機械部品の設計および製作</li> <li>・溶接部品の設計製造</li> <li>・運送業務</li> </ul>	敬称略 平成27年2月28日現在			
<b>経営理念</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.技術は究極を目指し</li> <li>2.競争と協調を尊び</li> <li>3.技術注力企業として社会に貢献する</li> </ol> <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。 そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>				

## 進化する技術で未来を拓く

年月	沿革
昭和40年4月	鉄工所を故前田務（元社長、元相談役）が個人で創業
昭和63年10月	マルマエ工業有限会社（現当社）設立（出資金2,000千円）
平成4年	オートバイ部品製造目的のT'sM'sR&D（現当社事業）を前田俊一（現代表取締役社長）が個人で創業
平成9年9月	T'sM'sR&Dの事業をマルマエ工業有限会社が引継いでR&D事業部を設置
平成13年4月	株式会社マルマエに商号および組織変更（資本金10,000千円）
平成15年12月	鹿児島県出水郡高尾野町（現出水市）に本店移転、新本社工場竣工、大型5面加工機導入
平成16年12月	日本証券業協会によるグリーンシート銘柄指定（証券コード6264）
平成17年10月	本社第2工場竣工
平成18年2月	鹿児島県出水市知識町の旧本社工場再取得（現知識工場）
平成18年12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
平成19年2月	熊本県菊池郡大津町の熊本事業所が稼働開始
平成19年5月	経済産業省発表の2007年度版「元気なモノ作り中小企業300」に選定
平成20年3月	本社第4工場竣工
平成20年4月	埼玉県朝霞市の関東事業所が稼働開始
平成20年5月	熊本事業所組立工場竣工
平成20年9月	熊本事業所加工工場増設
平成23年4月	熊本事業所の閉鎖
平成23年7月	事業再生ADR手続の成立
平成27年1月	事業再生ADR手続による事業再生計画の終結

※注 個人事業部分については、月次の確定が困難なため月の記載を省略しております。